

全体概要

実施期間 2026年7月～2027年2月

実施場所 大阪公立大学梅田サテライト (大阪駅前第2ビル 6階)
各実践プロジェクト、ゼミナールの現場など

受講対象者 **①新進アーティスト (美術、舞台芸術、音楽、映像等、現代アートに関する創造的活動を行う者)**
本格的に活動を始めようとしている者、または新たな展開を模索する者

②キュレーター、アートマネージャー、文化施設や芸術団体に関わる者、大学院生、研究生
活動歴は概ね1～10年程度を目安としますが、大学院生など活動初期段階の者も含めます。
芸術実践に関心を持ち、将来、現代アートおよびその関連分野や芸術界での活躍が期待される力を有することを重視します。

受講料 **フル受講：30,000円** 実践プロジェクト+ゼミナール+基礎講座+通期プログラム (DA-Lab交流会/アート×哲学カフェ/ブックレット/アーカイブ)

個別受講：ゼミナール 8,000円
基礎講座 通し(全4回) 5,000円/単発受講 1,500円
*実践プロジェクト及び通期プログラムは、フル受講者を対象としています。

修了証書 本プログラム(フル受講)を所定の条件のもとで修了された方には、大阪公立大学より発行される修了証書を授与します。

基礎講座「総合知を学ぶ」

総合大学である大阪公立大学の人的資源を活用し、財政学、経済学、環境経済学、歴史学、教育学、社会学、文化人類学、美学、音楽療法、アートマネジメントなどの研究者による、多様な専門領域を横断した総合知を提供。学問と芸術の横断的な出会いから、アーティストや芸術文化人材が新たな創造的実践の萌芽を生み出すことをねらいとします。

***個別受講可**
定員：各回50名程度

①「近代大阪の都市社会と社会包摂」

近代大阪の周縁部にあたる日本橋地区に1890年代以降に形成された裏長屋を取り上げて、1910～20年代の社会調査資料から、その実態に迫ります。長屋における生活や居住・労働の実態、家族と長屋内のコミュニティなど、社会的諸関係のありようを明らかにします。こうした都市周縁部の「不良住宅」地区と対峙した大阪市や地域の方面委員たちの社会包摂活動とその特徴にも論及します。

日時：7月15日(水) 19:00～21:00
会場：大阪公立大学梅田サテライト101
ゲストスピーカー：
佐賀朝
(大阪公立大学大学院文学研究科教授/歴史学)

②「遊びと対話：自由で自発的な表現の場を考える」

表現しようとする時、自由は解放の場にもなりますが、どうして良いのか分からない、重圧にもなります。自発的な生き生きとした表現の場を作るには、どのような工夫が必要なのでしょう。音を鳴らしながら、遊びと対話という観点から考えてみようと思います。

日時：10月7日(水) 19:00～21:00
会場：大阪公立大学森之宮キャンパス11階 1138
ゲストスピーカー：
沼田里衣
(大阪公立大学大学院文学研究科准教授/コミュニティ音楽)

③「財政とアート：財政学から見る文化政策」

本講義では財政とアートとの関係について取り上げます。財政及び財政学は近代国家の形成・展開とともに体系化されてきました。そうした財政及び財政学の変化はアートを取り巻く経済的環境にも少なからず影響を与えています。財政学の概要や財政学者による芸術のとらえ方、文化行政の財政的側面などを踏まえつつ、今後のあり方を考えます。

日時：10月21日(水) 19:00～21:00
会場：大阪公立大学梅田サテライト101
ゲストスピーカー：
水上啓吾
(大阪公立大学大学院経営学研究科教授/財政学)

④「「寄せ場」と表現」

日雇労働力の集積・供給の地として機能してきた「寄せ場」。戦後日本の高度経済成長期には港湾運送業・建設業などに従事する多くの労働者が集まりました。本講座では、そうした「寄せ場」で暮らし、働いていた労働者が自ら表現し、相互に鑑賞/批評する文化活動の展開を踏まえながら、社会の中で周縁化された人々にとっての表現の意味について考えます。

日時：11月18日(水) 19:00～21:00
会場：大阪公立大学梅田サテライト101
ゲストスピーカー：
中山博晶
(大阪公立大学大学院現代システム科学研究科講師/社会教育学、生涯学習論)

応募方法

フル受講 受講を希望される方は、右記のフォームよりご応募ください。

※**7月1日(水)の「DA-Lab交流会」はオリエンテーションを兼ねて実施します。** 受講を希望される方は、**できる限りご参加ください。** 詳細は中面をご覧ください。

※**7月1日(水)の「DA-Lab交流会」はオリエンテーションを兼ねて実施します。** 受講を希望される方は、**できる限りご参加ください。** 詳細は中面をご覧ください。

選考方法 フル受講希望者については、応募動機および企画内容をもとに、書類・グループ面談による選考を行います。応募者には、オンラインで3分程度のプレゼンテーションを行っていただきます。

実施日時：6月24日(水) 19:00～20:30 (オンライン)

時間割(予定)：19:00～19:30「地域・美術館と連携したアートプロジェクト」
19:30～20:00「文化ホールと連携した表現プロジェクト」
20:00～20:30「新進芸術家と社会人大学院生との協働プロジェクト」

プレゼンテーション内容：以下の内容を含めてください。(約3分)

- ① 希望する現場と実施したい内容
- ② 関心の背景・問題意識
- ③ 現場や他者とのように関係を築くか
- ④ 実現に向けた進め方(簡単で可)

※当日参加が難しい場合は、同内容の動画(3分程度)をGoogleドライブやYouTube等にアップロードし、閲覧可能なURLを応募時に上記のフォームから提出してください。

選考結果 6月25日(木)に応募者全員にメールにてご連絡します。

個別受講

右記の各応募フォームよりお申し込みください。

基礎講座		ゼミナール	
------	--	-------	--

*本事業では、アーカイブとして写真および動画の撮影を行います。また、これらの記録データを公開する場合がございますので、あらかじめご了承ください。

*7月1日(水)の「DA-Lab交流会」はオリエンテーションを兼ねて実施します。受講を希望される方は、**できる限りご参加ください。** 詳細は中面をご覧ください。

受講希望者向けオンライン説明会

6月7日(日) 13:00～14:00
6月17日(水) 19:00～20:00
右記の応募フォームよりお申し込みください。



問い合わせ先

大阪公立大学「DA-Lab」事務局
(経営学研究科内)
Email info@omuart.jp
Tel 06-6605-2496
(平日 9:00～17:00)
HP <https://omuart.jp> →

主催 | 大阪公立大学
学内協力機関 | 大学院経営学研究科/大学院文学研究科/都市科学・防災研究センター/地域連携センター
共催 | 大阪市/公益財団法人公害地域再生センター(あおぞら財団)/公益財団法人八尾市文化振興事業団/NPO法人トッカビ
協力 | 大阪アーツカウンシル/つなぎ美術館



総合知を活用した「社会に関わるアート」実践プログラム
大学・行政・民間の共創による芸術家等育成



DA-Lab 新進アーティスト募集



大阪公立大学 アート共創ラボ (DA-Lab) | Decolonial Art Lab | 大阪発、ローカルからグローバルを問い直す

2026年度新進アーティスト等育成プログラムがスタートします。環境危機や戦争、社会の分断が進む現代において、西洋中心的な価値観を問い直す「デコロニアル(脱植民地主義)」の視点が、現代アートにおいて重要性を増しています。日本でも、多文化共生や貧困、孤立、差別といった課題に向き合う多様な芸術実践が生まれていますが、それらを支える持続的な研究・教育体制は十分とはいえません。

2023年～2025年に実施した大阪公立大学「EJ ART」プログラムでは、ソーシャルアートを、社会課題を抱える現場において住民とともに地域の知恵から学ぶ実践として捉え直してきました。これはデコロニアルな視点にも通じるものです。本プログラムではこの成果を継承し、アートを社会にひらき、他者とともに創るプロセスを重視します。特に、本プログラムでは単一の作家性に依拠せず、複数の主体が関係しながら知や表現を立ち上げる実践を重視します。

活動は概ね3年間を想定し、以下のように展開します。
1年目は、コレクティブでの活動・制作や、次年度に向けたリサーチ、プランニングを行います。
2年目は、コレクティブによる発展的な制作、または個別の活動・制作へと展開します。
3年目は、成果を踏まえた展覧会やプロジェクトの企画・実施へとつなげます。

期間中は制作費および交通費の一部を、現場に応じて助成し、第一線で活躍するキュレーターが継続的に伴走支援を行います。大阪・関西、熊本の現場において美術館や文化ホール、オルタナティブスペースと連携し、大阪公立大学の多様な研究資源を活用することで、学問と芸術の横断的な出会いから新たな創造的実践の萌芽を生み出すことをめざします。社会課題に向き合い、国際的な視野を持ちながら、他者とともに表現を立ち上げていく意欲的なアーティスト等の応募をお待ちしています。

プログラムディレクター メッセージ

大阪で、総合大学という場を活かしながら、異なる分野の知や人が出会い、アートの実践を深めていける場をつくりたいと思っています。これから本格的に活動を始めようとしている方や、いまの表現にどこか行き詰まりや違和感を感じている方にとって、他者との対話や、普段は触れない領域の視点に出会うことで、少しずつ輪郭が見えてくる。そんな経験が、この場で生まれたらと考えています。あいちトリエンナーレ(2010|2013|2016)やアートラボあいちに関わり、ユニットやコレクティブによる実践や学びに触れてきた経験が、本プログラムの出発点のひとつになっています。このプログラムでは、キュレーターや研究者、参加者同士が関わり合いながら、それぞれの関心や問いを持ち寄り、時間をかけて深めていきます。3ヶ年中に、美術館・オルタナティブスペース・文化ホールなどでの展示・パフォーマンスも予定しています。ただ、それ以上に大切なのは、そこに至るまでのプロセスだと感じています。これからの一歩をどう踏み出すか考えている方と、この場で出会えたらうれしいです。

吉田隆之 (大阪公立大学大学院経営学研究科教授)

※デコロニアル(脱植民地主義)とは植民地支配の歴史やその影響、西洋中心の価値観や仕組みを問い直し、それらを見直していく実践です。多様な視点や関係性をひらくことをめざします。

※コレクティブとは対話や協働を通して多様な他者とともに表現や場を立ち上げていく実践のあり方です。



2026年度 活動予定

フル受講について

▼いずれか1プロジェクトを選択

実践プロジェクト

地域・美術館と連携したアートプロジェクト	文化ホールと連携した表現プロジェクト	新進芸術家と社会人大学院生との協働プロジェクト
----------------------	--------------------	-------------------------

▼いずれか1ゼミを選択

ゼミナール

芸術表現の理論・歴史	場・空間を作る技法
------------	-----------

通期プログラム

基礎講座

DA-Lab 交流会

評価

アート×哲学カフェ

アーカイブ

ブックレット

実践プロジェクト

デコニアルをはじめとする現代的かつ批判的な視座を基盤に、アートを社会に開き、共創を生み出す実践に取り組みます。大阪・関西、熊本の現場で、美術館、文化ホール、オルタナティブ・スペースと連携します。

ガイダンス

実践プロジェクトの初回では関係者と共に、現場の背景や実施の趣旨を理解し、今後の方向性を共有する時間とします。選択したプロジェクトに限らず、できる限りご参加ください。

会場 大阪公立大学梅田サテライト101

文化ホールと連携した表現プロジェクト

日時：7月6日(月)19:00～21:00

講師：朴洋幸 (NPO法人トッカピ代表理事)

地域・美術館と連携したアートプロジェクト

日時：7月8日(水)19:00～21:00

講師：藤江徹 (あおぞら財団事務局長)

新進芸術家と社会人大学院生との協働プロジェクト

日時：10月24日(土)10:30～12:00

講師：レオナルド・バルトロメウス (キュレーター、山口情報芸術センター[YCAM])

▼いずれか1プロジェクトを選択 定員：各5名程度

「地域・美術館と連携したアートプロジェクト」 —大阪・西淀川と熊本・津奈木—

共催：公益財団法人公害地域再生センター (あおぞら財団)
協力：つなぎ美術館

西淀川区は、高度経済成長期に深刻な大気汚染公害を経験した困難な歴史を持っています。しかし、当時を知る人は減り、その痛みの継承が途絶え、風化する恐れがあります。一方、水俣は、水俣病の被害を受け、分断と差別の歴史を有しています。2001年、地域再生を目的とし「つなぎ美術館」が設立され、住民参加型アートプロジェクトに取り組んできました。環境正義という共通項を持つ西淀川と水俣を結び、協働プロジェクトを展開します。1年目は、西淀川のまちや公害の歴史をリサーチし、コレクティブで制作を行います。作品は、地域イベント「みてアート」で発表します。2年目に向け、西淀川(3名)と、つなぎ美術館(2名)に分かれ、個別制作のプランニングを行います。西淀川は金崎亮太、津奈木は楠本智郎が伴走します。

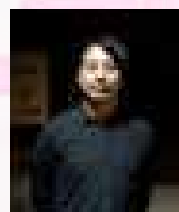
実施時期：7月～11月 全10コマ

会場：大阪市西淀川区、熊本県津奈木町、水俣市

キュレーター：



楠本智郎
(つなぎ美術館主幹・学芸員)



金崎亮太
(「DA-Lab」プログラム
コーディネーター、
大阪公立大学特任教授)

サポート

コレクティブの活動・制作費：10万円
水俣までの往復交通費(大阪発着)支給(つなぎ美術館チーム2名)

こんな方におすすめです

- 地域をリサーチして作品を作りたい方
- 地域の方々と協働して作品を作りたい方
- 水俣病を始めとした公害を多面的にとらえたい方

「文化ホールと連携した表現プロジェクト」 —多文化共生の実践—

共催：NPO法人トッカピ
八尾市文化会館プリズムホール

トッカピは、大阪八尾市の在日コリアンが多住する地域で、そこに暮らす子どもたちへの人権擁護の活動を行うため設立されました。その後、地域に多様な国籍の在住者が増えるにつれ、これまでの経験を活かし、ベトナム、フィリピンなどの外国にルーツを持つ子どもたちや人々が、異なる社会的・文化的背景を隠したり否定することなく、肯定的に受け止め、物事を豊かに感じ生きていくことができる社会環境を築くことをめざし活動を行ってきました。本プロジェクトでは、トッカピに集まる外国にルーツを持つ子どもたちと受講生が定期的集まり、交流を深め、11月に八尾市文化会館プリズムホールと連携し、コレクティブ形式でアートウィークの企画・実践をします。池上朋が伴走します。

実施時期：7月～11月 全10コマ

会場：八尾市文化会館プリズムホール

コーディネーター：朴洋幸 (NPO 法人トッカピ代表理事)

キュレーター：



池上朋
(せんだいメディアテーク・キュレーター、
Refugee Week Japan 代表)

サポート

コレクティブの活動・制作費：10万円

こんな方におすすめです

- 多文化共生について多角的な視野を持ちたい方
- 子どもたちの表現を引き出し、子どもたちと一緒に活動、実践が可能な方
- 地域の居場所づくりの運営企画に関心のある方

「新進芸術家と社会人大学院生との協働プロジェクト」 —此花・森之宮ほか—

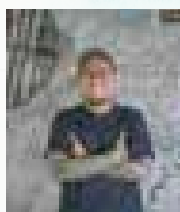
* 本プロジェクトで此花地区を希望される方は、ゼミナール「場・空間を作る技法」への参加を推奨します。

受講生は、大阪公立大学社会人大学院で開講される「アートプロジェクト論」に参加し、アートマネジメントを学ぶ大学院生と協働してアートプロジェクトを企画します。つづいて、受講生が中心となりプロジェクトを実施。理論と実践を往還しながら、地域資源の読み取りや協働による場づくりを学び、デコニアルの視点から新たな地域文化の創出を探索します。フィールドは、大阪のアートシーンを牽引してきた此花地区と大阪公立大学森之宮キャンパスとその周辺地域などです。森之宮はレオナルド・バルトロメウス、此花は池田佳穂が伴走します。

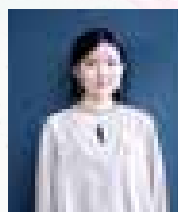
実施時期：10月～1月 全10コマ+企画実施

会場：大阪市此花区、大阪公立大学森之宮キャンパスとその周辺地域ほか

キュレーター：



レオナルド・バルトロメウス
(山口情報芸術
センター[YCAM])



池田佳穂
(インディペンデント・キュレーター)

サポート

コレクティブの活動・制作費：10万円

こんな方におすすめです

- アートマネジメントを学ぶ社会人大学院生との協働に関心のある方
- コレクティブ活動に興味のある方
- 「アートプロジェクト論」に参加可能な方(梅田サテライトで実施) 10月17日(土)～12月19日(土)10:30～12:00/毎週土曜日

ゼミナール

*個別受講可(フル受講者優先)

各分野の第一線で活躍する専門家を招聘し、理論と現場を往還しながら、活動・制作に不可欠な、(1)芸術表現の理論・歴史、(2)場・空間を作る技法を深く掘り下げて学びます。

▼下記2ゼミのうち、いずれか1つを選択

芸術表現の理論・歴史

文化研究者・山本浩貴講師が主宰する読書会を開催し、美術史とポストコロナル理論の交点に位置する重要文献を読み解きます。植民地主義やトランスナショナリズム、地域性、アイデンティティなどの視点から現代アートを捉え直し、芸術表現の背景にある歴史的・社会的文脈を多角的に学びます。講師や他の受講者とのディスカッションを通じて理論的理解を深めるとともに、現代の芸術表現を読み解くための思考力と批評的視点を養います。

定員：8名程度 ※先着順

「アート×ポストコロナリズムの重要文献を精読する」

日時・会場：

- ① 7月22日(水)19:00～21:00/オンライン
- ② 10月14日(水)19:00～21:00/オンライン
- ③ 11月11日(水)19:00～21:00/大阪公立大学梅田サテライト108

講師：山本浩貴 (実践女子大学文学部美学美術史学科准教授)

場・空間を作る技法

大阪・此花のアーティストランスペース (FIGYA)、神戸・平野の廃屋再生拠点 (バイソン)、大阪市内に点在する長屋 (オープンナガヤ大阪)を訪ねます。既存の場所を活かした多様な実践事例に触れながら、場の読み取り方、空間の立ち上げ方、継続的な運営の視点を習得します。これらを通して、地域や社会と関わるアートプロジェクトにおける「場・空間の創造」の可能性を探索します。

定員：15名程度 ※先着順

①「大阪ローカルアートアクティビズム」 —デコニアルな振る舞いとは—

日時：7月19日(日)16:00～18:30

会場：大阪市此花区梅香、西淀川区姫里エリア

講師：mizutama (FIGYA 合同会社代表)

②「廃屋と再生～バイソン訪問」

日時：10月26日(月)14:00～16:00

会場：バイソン (神戸市兵庫区梅元町)

講師：西村周治 (合同会社廃屋代表)

③「オープンナガヤ大阪暮らしめぐり」

日時：11月ごろの日曜日を予定 13:00～17:00

会場：大阪市内

講師：小池志保子 (大阪公立大学生活科学研究所教授、ウズラボー級建築士事務所)

通期プログラム

DA-Lab 交流会

4コマ

*一部の回は、「評価ワークショップ(評価WS)」を実施します。

受講者同士のコミュニケーションや意見・情報交換を目的に定期的な交流会を実施します。また、評価プログラムとの連携により、自身の学びをふりかえる機会を設けます。

① 交流会/オリエンテーション

日時：7月1日(水)19:00～21:00

会場：大阪公立大学梅田サテライト101

② 評価WS 日時：実践プロジェクト序盤ごろの予定

③ 評価WS 日時：実践プロジェクト終盤ごろの予定

④ 交流会 日時：2月ごろの予定

会場：大阪公立大学梅田サテライト

(②・③はオンライン併用で実施します)

評価WSファシリテーター：石幡愛 (アートマネージャー,リサーチャー)

評価

2コマ程度

本プログラムでは、事業改善と説明責任の観点から、評価に力点を置き、かつ講座として取り入れる点に大きな特徴があります。受講生は、参加型評価の主体として関わり、評価コーディネーターや文化事業評価の研究者から、文化事業における評価の知見を学ぶことができます。評価WSはDA-Lab交流会の一部として実施され、参加型評価の実践と基礎的な知見を学びます。

コーディネーター：

熊谷薫 (合同会社ARTLOGY代表)

石幡愛 (アートマネージャー,リサーチャー)

川野辺雪菜 (フリーランスファンドレイザー)

アート×哲学カフェ

3コマ

受講生が各「実践プロジェクト」の現場で生じた疑問(もやもや)やふと気になったことなどについて、それってどういうことなのかを問い直します。受講者の発言を聴き合える安全な空間になるよう参加者全員(ファシリテーターを含む)でめざします。各実践ごとに1回ずつ開催します。

定員：各回5名

開催時期：9月、10月、12月(予定) ※いずれか1回を選択

会場：大阪公立大学梅田サテライト

ファシリテーター：

服部俊子 (大阪公立大学大学院経営学研究所教授)

アーカイブ

1コマ程度

制作過程や活動の記録を単なる保存ではなく、作品の意味生成と作家性の構築に関与する実践として捉えます。本講義では、記録がいかに作品理解を方向づけ、自己の実践を他者にどう読ませるかという提示のあり方を検討します。さらに、記録を通して制作を検証し、次の表現へと接続する方法についても扱います。

「セルフドキュメンテーションのすすめ」

開催時期：8月19日(水)19:00～21:00

会場：オンライン

アドバイザー：

山口祥平 (大分県立芸術文化短期大学准教授)

金崎亮太 (「DA-Lab」プログラムコーディネーター、大阪公立大学特任教授)

ブックレット

1コマ程度

人材育成の成果を把握するため、写真・動画・資料等を「アーカイブ」で収集し、受講生の気づき、もやもや、事業の紆余曲折を「評価」で収集、分析します。これらのプロセスは、レクチャーや「ブックレット」の編集作業を通して受講生と共にかたちづくられ、Decolonial Artの新たな視座を提示することをめざします。

「何が記録されるのか。」

開催日時：10月26日(月)19:00～21:00

会場：大阪公立大学梅田サテライト101

コーディネーター：

則武弥 (有限会社ペーパーバック代表)

スケジュール

*各プログラムの日程詳細は、決まり次第、受講生の皆さんにお知らせします。

